

文久三年十一月十二日より文久三年十一月十五日まで

P8311056 right

十二日卯 晴風

松村(忠)賀に来る、せき女尚また来る、柳亭へ面謝として唐機一反を投す、出 殿、薄晩  
(はくばん、薄暮と同様)

退出、今朝笠原(常)来り鯉節一笥を賀贈せらる、賢道順来りし旨、藤沢(大)来りし旨、斉藤  
弥十郎請状本日為済申し候

十三日辰 晴

水谷(竹)来る辞して不面、甲州より本日同人御用召名代の儀頼来る、出 殿右名代相勤退出  
黄昏に

至る、大塚(勝)旧北堂の病を防来りし旨、柳亭方より葡萄、焼芋、上白米□□灰等贈り越せし  
旨、藤沢本日■移居に付白米に菜漬樽等贈り遣し同家より賀赤飯贈り越せし旨、菊池より鯛一  
匹□□に以故に、白石■・■賀贈し来る、木村(敬)より□賀赤飯贈り越す旨、**永持来り**、本日

**五郎次(永持享次郎の養子)**

**養子願相済候段、吹聴有し**、且此度の賀として馬上砲二を贈らる、一杯を勧む、甲心籠より鼠脂  
一匹□銭鳴せらる

P8311056 left

十四日巳 晴

出 殿、退出本に■・■内来り宿す、箱入儀扇等を賀□す、賀銀を為取、五郎次養子  
願済吹聴に来りし旨、阿関(\*)又々一旦帰宿す、弥十郎本日より移り来り仕ふ

十五日午 晴

金港より亜へ遣すブロヲ(ウ)ン地所の義、御返翰戻し、且同人より急の趣差出し書翰月番三太郎  
方へ届し旨にて同人より

為持せし越今願同人金港出張故也、翻訳方礼蔵呼寄せ遣す、延齊に付、来着次第直に出

殿可致旨申請様申置、出 殿、月並御禮有し、永持方養子願済、小兒三才 並着常等の賀に付招  
かる退出より行く**歟**、**太郎**ともに遣し賀品夫々を投す、亨せらる帰途本へ入る途中御城出火(\*)  
し

由承り急ぎ帰宅置、登城燄の天に滔る、恐縮勤の無辞、御用書物類持出し分、支配向の者

自宅へ持参敬、一復之助、甚五郎差之助寅七は□之助□三等来る、温物を勧む、大越より鯉節箱

\*1:阿関、せき女のことか?

\*2:1)の日、江戸城本丸、二の丸一部が炎上

( )内は細字双行(一行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。

【文字判読不可】、■は、文章の一部に汚れ、虫食いにより文字が無い等です。